北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

連携型博士研究人材総合育成システムの構築

CONTENTS

●コンソーシアム発足に寄せて …… 3
北海道大学総長　山口佳三
●三大学協調による若手研究人材育成をめざして …… 4
東北大学　理事　伊藤貞嘉
●人材育成コンソーシアムの設立にあたって …… 4
名古屋大学　理事　副総長　國枝秀世
●連携型博士研究人材総合育成システムの構築 …… 5
北海道大学　理事　副学長　川端和重
1. 次世代研究者育成プログラムについて …… 6・7
北海道大学　人材育成本部　特任教授（コーディネーター）　米田純一
2. イノベーション創出人材連携育成プログラム …… 8
北海道大学　人材育成本部　特任教授（コーディネーター）　吉原拓也
2−①北海道大学の取り組み …… 9
2−②東北大学の取り組み …… 10
2−③名古屋大学の取り組み …… 11
●連絡先 …… 12

平成28年度
コンソーシアム事業（北海道大学・東北大学・名古屋大学）
イベントスケジュール

連携型博士研究人材総合育成システム

日程未定　北海道大学・東北大学・名古屋大学
連携型博士研究人材総合育成システム
シンポジウム2016（名古屋大学にて）

平成28年度
イノベーション創出人材連携育成プログラム
各大学イベントスケジュール

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY　平成２８年度 イベントスケジュール

4～7月毎週月曜日
キャリアマネジメントセミナー（第４限）

5月中旬
ビジネスマナーセミナー

6月
第１回赤い糸会＆緑の会・札幌

7月上旬
キャリアパス多様化支援セミナーⅠ（知的財産）

8月上旬
Advanced COSA(1)

10月
第１回企業事業所視察

10月中旬
キャリアパス多様化支援セミナーⅡ（交渉学）

11月中旬
Advanced COSA(2)

11月下旬～12月上旬
第２回赤い糸会＆緑の会・札幌

H29年1月下旬
シンフォスターシンポジウム

H29年1月下旬
キャリアパス多様化支援セミナーⅢ

H29年2月中旬
第３回赤い糸会＆緑の会・東京

H29年2月中旬
第２回企業事業所視察

東北大学 TOHOKU UNIVERSITY　平成２８年度 イベントスケジュール

4月1日～5月初旬
イノベーション創発塾　第３期生募集

5月下旬
イノベーション創発塾　開講

9月初旬
キャリアパスフォーラム

以　下　未　定

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY　平成２８年度 イベントスケジュール

4～7月隔週土曜日
Ｂ人セミナー：前期（５回）

7月下旬
博士のキャリアパスシンポジウム

9月下旬
企業と博士人材の交流会

10～1月隔週土曜日
Ｂ人セミナー：後期（５回）

以　下　未　定

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

コンソーシアム発足に寄せて

北海道大学総長
山口　佳三

大学の第一の使命は人の育成にあります。昨今、若手研究者の活躍の場となる大学や研究機関そして産業界等は急速なグローバル化や予測できない経済変動に晒されており、グローバルな舞台で積極的に挑戦活躍できる人材をより多く育成することが、これまで以上に大学に求められております。北海道大学では、第二期中期目標・中期計画大綱において「世界水準の人材育成システムの確立」を掲げ、「入学からテニュア職獲得まで」の一貫した人材育成システムの構築を目指し、若手研究者の育成をはじめとする様々な人材育成システムの改革を進めています。

本パンフレットで紹介する「連携型博士研究人材総合育成システムの構築」もこの様な流れの中における人材育成システム改革の１つであり、平成26年度、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、北海道大学が代表機関として東北大学および名古屋大学とともに申請し、採択されたものです。本事業では、これらの基幹研究総合大学が、各校の研究および人材育成に関するノウハウの蓄積と資源を効果的に共有（コンソーシアムを構築）し、連携して若手研究人材を育成します。これまでに例を見ない、この新たな人材育成システム構築への挑戦に皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

三大学協調による若手研究人材育成をめざして

東北大学　理事（研究担当）
伊藤　貞嘉

平成26年度から文部科学省が実施する「科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業」に対し、北海道大学、名古屋大学と本学がコンソーシアムを構成して応募し、この度採用されました。本事業は、「複数の研究機関が連携してコンソーシアムを形成し、若手研究者や研究支援人材に対して、流動性を高めつつ、安定的な雇用を確保するために、国内外の研究機関、企業等とも連携してキャリアアップを図る仕組みを構築し、海外や企業を含めた多様な場で活躍する研究者と高度な研究支援人材を育成することを目的とする」もので、平成26年度から8年間の事業プログラムです。

本学では、既に学位プログラム推進機構国際高等研究教育院において修士・博士研究教育院生を学内から公募・選抜し、若手研究者として育成するシステムが確立し、併せて博士後期課程学生やPDを対象として、高度教養教育・学生支援機構キャリア支援センター内の高度イノベーション博士人財育成ユニットにおいてイノベーション創発人財育成プログラムが進行中です。加えて、学際科学フロンティア研究所においては、国際公募によって若手研究者を募り、平成27年4月現在で45名（准教授2名、助教43名）が活躍中です。これらの学内における若手研究者のキャリアアップ支援システムは、今般のコンソーシアム構築事業と主旨を同じくするものであります。北海道大学、名古屋大学と連携を組むことにより、各大学のもつ強みを生かし、かつ相互に補完することよって、研究人材育成環境がさらに改善されるものと期待しております。

本プログラムに参加される若手研究者の皆さんには、長期海外留学、国内他大学における研修などの恵まれた研究並びに事業環境を活用し、自分のスキルアップを図り、世界に羽ばたく研究者として成長されんことを祈っております。

本事業の採択にご尽力頂いた関係者各位に厚くお礼申し上げ、また今後の発展・展開に向けて皆様のご理解・ご協力・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

人材育成コンソーシアムの設立にあたって

名古屋大学　理事（研究・学生担当）　副総長
國枝　秀世

この度、北海道大学ならびに東北大学とコンソーシアムをつくり、3大学が保有する充実した研究環境および人材育成のための資源を共有して、人材育成プラットフォームを構築することになりました。海外派遣や共同研究、インターンシップやキャリアパス支援、雇用期間の保証と流動性を促す仕組みの確保により、文系理系を問わず、次世代研究者やイノベーション創出人材を育成する本プログラムを実施します。この取組は、名古屋大学が人材育成目標として常に掲げる「勇気ある知識人の育成」に合致することから、私たちは、本コンソーシアムの設立を心から歓迎します。

本コンソーシアム事業における、名古屋大学の取組の特色のひとつは、次世代研究者育成の対象者を、既に本学で実施しているYLC（Young Leaders Cultivation）プログラムにおいて採用された特任助教からさらに選抜することです。これは、本学の教育研究の継続的な発展のため、助教クラスの優秀な若手教員を継続的かつ計画的に採用、養成するためのプログラムですが、多数の応募者から厳選されたYLC教員の中から、さらに本コンソーシアムへの参加によって大きく飛躍できる者をS-YLC教員として選抜し支援します。採用者は、スタートアップ経費や海外研修経費の措置を受けることにより自立的研究環境の構築と着実な研究始動、さらに新たな研究ネットワークの構築が可能となります。一方、イノベーション創出人材の育成については、3大学で共有するキャリアパス多様化支援プログラムによって、DC学生やPDを対象とした求人情報の提供、個別面談、セミナー、企業等へのインターンシップ派遣を通じて、異分野・異文化コミュニケーション能力を育むことにより、博士人材のキャリア開拓を支援する計画です。

本コンソーシアム事業のもと、北海道大学ならびに東北大学の皆様と協働し、大学の教育・研究・運営システムの改善を進めていくことができることを大変うれしく思っております。3大学の若手研究者が、コンソーシアムを足掛かりとして3大学内での共同研究を推進すると共に人脈を広げ、本事業が目指すコンソーシアム内での流動性を高め、さまざまな分野で国際的に活躍してくれる日を心待ちにしております。2014年度ノーベル物理学賞受賞者である天野先生は若手研究者育成の重要性を何度も指摘されています。本プログラムもその推進の一翼を担うものと確信しています。

連携型博士研究人材総合育成システムの構築

北海道大学　理事（研究・産学官連携、地域連携、知的財産等担当）副学長
川端　和重

1. 本事業について

本事業は、北海道大学が代表機関として東北大学、名古屋大学とともに文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）」に申請、採択され、平成26年度にスタート致しました。本事業は、北海道大学、東北大学、名古屋大学の3大学が「コンソーシアム」を形成し、互いの研究人材育成資源を結集して、多様な分野を対象にした次世代研究人材育成システムを構築するものです。

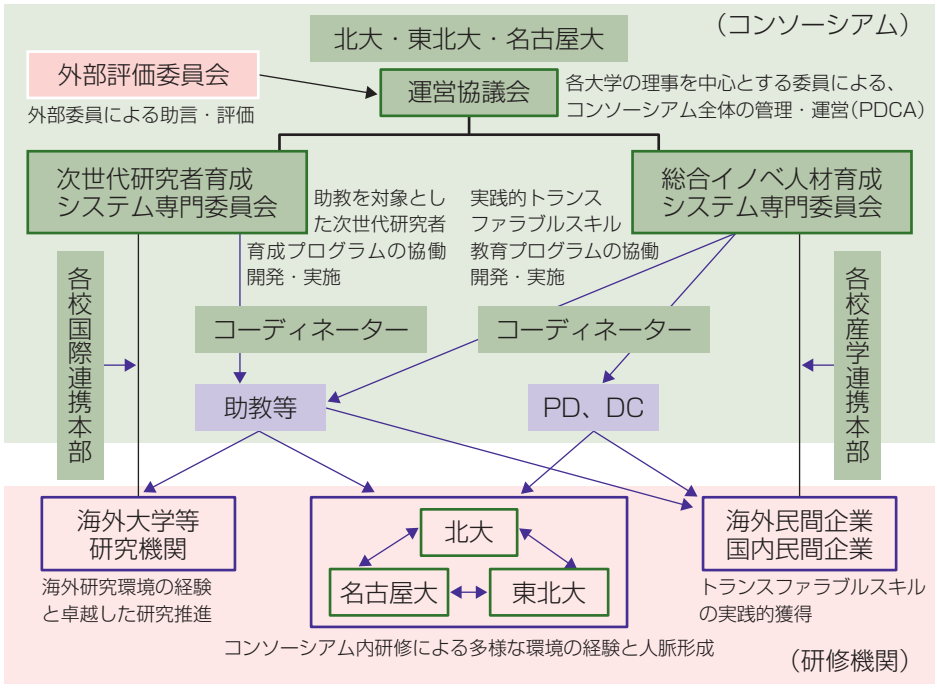
2. コンソーシアムの構想

我が国を代表する総合大学3校によるコンソーシアム、外部評価委員会、および研修先としての連携機関（海外連携大学・研究機関及び国内外の企業等）が一体となり、3大学が保有する充実した研究環境および人材育成のための資源を共有することで、博士研究人材が多様なキャリアパスを選択できる共通の科学技術人材育成プラットフォームを構築しつつ、流動性を促進する仕組みを構築しながら、次世代を担う研究者連携育成システムを確立します。

3. コンソーシアムとしての人材育成の方針と理念

北海道大学、東北大学、名古屋大学が、これまでの研究および人材育成に関するノウハウの蓄積と資源を効果的に共有し、若手研究者の自律的環境における専門性の深化を一層促進させるとともに、国内外の多様な場においてその真価を発揮するための素養、即ち、国際性とトランスファラブルスキルを備えた次世代を担う科学技術人材の育成を行います。また、原則5年という比較的長期の育成期間を設定し、研究者として必要な基盤的素養を多角的に身につけることを促します。本事業は、任期付き助教等を対象とした「次世代研究者育成プログラム」とPD,DCを対象とした「イノベーション創出人材連携育成プログラム」の2種類のプログラムで構成されています。

連携型博士研究人材総合育成システムの構築（概念図）



1．次世代研究者育成プログラム

次世代研究者育成システム専門委員会　コーディネーター
北海道大学　人材育成本部　特任教授
米田　純一

「次世代研究者育成プログラム」は、三大学が連携して優秀な任期付助教が任期後も継続して研究を続ける道筋をつくることを目標としていますが、目標達成のポイントはふたつあります。

ひとつは、彼らの自律的研究推進を支援することであり、具体的には三大学でこれまでに構築された若手研究者育成プログラムや研究環境を共有化するなど、コンソーシアムとしてのシナジー効果を発揮できる支援・育成システムを構築することです。それはある大学の育成プログラムを他大学にそのまま移植するとか、育成対象者が他大学の研究設備を利用すると言ったシンプルなことでは必ずしもなく、個々の助教のニーズや各大学各部局の実情を踏まえて、彼らが独自の発想で推進する研究を効果的に支援するための自由度のあるシステムであることが大切な要件と考えています。

もうひとつは、若手研究者にとって専門研究スキルに加えて非常に重要なスキルであるトランスファラブルスキルを習得向上させるためのプログラムを提供することです。その第一歩として、「次世代研究者育成システム」と「イノベーション創出人材連携育成システム（PC,DC育成プログラム）」を連動させる仕組みを検討し、助教の皆さんへのイノベプログラム情報の配信を開始しました。活用の方法はアイデア次第ですが、「次世代研究者育成プログラム」に参加する助教等は雇用するPDのキャリア支援を目的としてPC,DC育成プログラムを活用することもあるでしょうし、自分自身が参加して異文化コミュニケーションや企業との共同研究の足がかりとすることもあるかもしれません。今後は、若手研究者の皆さんの声を聞きながらシステムを充実させていきたいと考えています。

これを含めてコンソーシアムという大きな枠組みと若手研究者が活躍する「研究・教育の現場」をどのように結び付けるかはコーディネーターの腕の見せ所です。
そのためには三大学の若手研究者はもとより、事業責任者や各大学の事務関係者の方々とも丁寧なコミュニケーションを重ねて、ひとつひとつ実績を積み上げることによりシステムを構築していきたいと思います。

北海道大学：伴戸久德教授

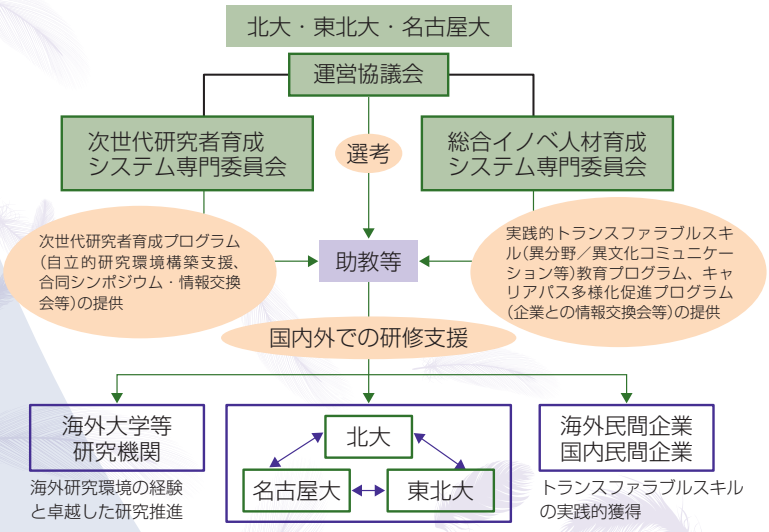
東北大学：佐藤正明教授

東北大学：才田淳治教授

名古屋大学：田中健太郎教授

名古屋大学：藤巻朗教授

次世代研究者育成プログラムの概要



次世代研究者育成システム概要について

1.公募・選考

(1) 公募

育成対象候補者は各大学において国際公募により募集します。異分野間交流を推進する観点から募集分野に制約は設けていません。現在募集中の公募情報は各大学のWEBサイトを参照してください。なお、育成対象候補者の資格は以下となります。

博士号取得後10年以内、40歳未満（文部科学省人材育成費補助事業に基づく公募のため）

(2) 育成対象者の選考

育成対象者の選考は、募集大学とコンソーシアムの2段階選抜で行います。

各大学で採用選考（一次選考）は専門性や業績を中心とした選考を行います。第二段階では、北海道大学、東北大学、名古屋大学の委員より構成される次世代研究者育成専門委員会が書類審査と面接審査を行い、育成対象者を決定します。

次世代研究者育成専門委員会において重視する審査の観点は以下のとおりです。

Ⅰ 研究の意義とアピール度
Ⅱ 留学計画の具体性と留学がもたらす波及効果
Ⅲ 次世代研究者育成システムの趣旨に沿った活動計画、抱負
Ⅳ コミュニケーション能力
Ⅴ 研究経費使途の妥当性

2.支援内容・育成プログラム

(1) 支援内容

Ⅰ 採用者には、スタートアップ経費として最大500万円/年を雇用年度より2年間支給し、自立的研究環境の構築と研究推進を支援します。研究エフォートは60%以上としています。

Ⅱ 着任した部局等において1名のメンターを選任し、育成対象者のスムーズな研究開始と推進を支援します。

(2) 育成プログラム

Ⅰ 育成期間中に原則6ヶ月の海外留学を義務付けその経費等（一部、もしくは全部）を支援します。

Ⅱ 異分野・異文化コミュニケーション能力の獲得などキャリア形成に関わる教育研修プログラムを提供します。

3.人事制度

育成対象者任期は5年です。

育成対象助教の留学先（予定）一覧

テキサス大学 ……（アメリカ）
フランス国立科学研究センター ……（フランス）
フランス国立保健衛生医学研究所 ……（フランス）
オックスフォード大学 ……（イギリス）
リーズ大学 ……（イギリス）
フィレンツェ大学 ……（イタリア）
カリフォルニア大学 ……（アメリカ）
プリンストン高等研究所 ……（アメリカ）
ハーバード大学 ……（アメリカ）
マックスプランク研究所 ……（ドイツ）
アジア太平洋センター ……（韓　国）

2. イノベーション創出人材連携育成プログラム

総合イノベ人材育成システム専門委員会　コーディネーター
北海道大学　人材育成本部　特任教授
吉原　拓也

東北大学：髙橋富男主幹

名古屋大学：河野廉教授

北海道大学：樋口直樹特任教授

【イノベーション創出人材連携育成プログラム】の趣旨

本事業の第一の部分ではアカデミアにおける優秀な研究人材を三大学で協働して育成することが目的ですが、第二の部分は、もう少し若い世代の博士課程学生（DC）や博士研究員（PD）に対するキャリアパス多様化促進に資する各種プログラムの、連携型への移行と発展に主眼を置いています。

理工系のDCやPDはアカデミア志向、つまり研究者として生き抜く場所は大学等のアカデミア機関しかないとの思いが強くなる傾向があります。しかしながら大学院重点化以降に増加したこれら多くの若手研究人材をアカデミアだけで吸収することはポスト数の現状に鑑み難しいところです。彼らDC・PDが視野を広く持ち、獲得した知識やスキルをいかんなく発揮できる分野へ積極的に打って出るためには、産業界などアカデミア以外で挑戦しようという彼ら自身の意識改革の取り組みと、そのような活躍の場に関する正確な情報が必要であることは明白であります。

過去数年にわたり、連携する三大学では文部科学省の支援を受けながらそれぞれが独自にDC・PDに対する意識改革の取り組みや情報およびマッチングの場の提供など、育成のプログラムを構築し推進してきました。それにより多くのDC・PDが海外を含むアカデミア以外の民間企業や研究機関において、その活躍の場を見出し獲得し、実績も上げ始めています。しかしながら各大学単独での施策には経費面や要員面での制約はもとより、各大学の立地や在籍するDC・PDの属性の特徴など、個別の条件も重なって、多方面での施策の展開にはおのずと制約が出てきます。

このような制約を超えた施策を実施するため、本事業では連携する三大学の持つそれぞれ特徴のある有益なプログラムを共同開催、参加枠提供、相互乗り入れや配信などの手段を用いて共有化し、お互いの施策を補完することを始めます。

【イノベーション創出人材連携育成プログラム】概要

①育成内容

三大学が開発してきた若手研究者（ポストドクター、博士後期課程学生等）に関する独自の人材育成プログラム（データベース、企業を知るためのセミナーや企業等との密接なマッチングシステム等）を連携させ、コンソーシアム内で若手研究者が自由に参加できる仕組みを構築し、育成対象者にはこれらのプログラムへの参加機会を与えるとともに、多様な企業等でのインターンシップ実施を支援します。

②募集・選考・採用

育成対象者は、特にアカデミア以外でのキャリアパスを志向し、意識高く情報を収集しようとする若手博士研究人材を対象に、公募・推薦等により募集し、コンソーシアムにおいて決定します。
詳細は以下参照。

【協働して実施する各機関のプログラム】
●北海道大学：人材育成本部
上級人材育成ステーション（S-cubic）
http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/
●東北大学：高度イノベーション博士人財育成ユニット
http://www.ilp.tohoku.ac.jp/
●名古屋大学：社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター
http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/graduate/career/

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学で博士人材の支援を担当しているのは、人材育成本部・上級人材育成ステーション（S-cubic）です。当ステーションでは博士後期課程学生（DC）や博士研究員（PD）のための登録制WEBシステムの構築と、それを介在した各種意識改革プログラム（講義やセミナー・演習など）の実施や、企業と博士の直接人材交流マッチング、企業訪問によるシーズ／ニーズマッチング、さらには博士力実践インターンシップによる企業経験の支援など多くのコンテンツを提供し、博士人材の社会での活躍の多様化を支援しています。これらの施策は博士人材の意識改革から実践的プログラムへとレベルアップし、最終的には企業での活躍を目指すものです。

本プログラムではこれらコンテンツのうち、セミナーなどのリアルタイム配信やオンデマンド提供、またマッチングイベントなどの共同開催、参加枠提供、相互乗り入れを積極的に推進していきます。

具体的に共有・協働可能なものとしては、

■Hi-System（博士のための情報提供WEBサイト）　■J-window（博士のための進路相談窓口）
■キャリアパス多様化支援セミナー（単回セミナー；理工系博士の研究職以外の可能なキャリア紹介等）
■Advanced COSA（2日間集中；企業の研究開発の実際を知る企業人によるセミナー）
■赤い糸会＆緑の会（1日集中；企業人を招いての博士人材との直接マッチング）
■博士力実践インターンシップ（2か月以上；実際に企業での研究開発業務に携わる）

などがあります。

Advanced COSA
（企業研究の実際を知るための企業人によるセミナー）

現役の企業の研究所長クラスの方に企業における研究開発の実際と、その方自身の研究者としての人生を語っていただく貴重な機会です。アカデミア研究と企業研究の違いや、企業における博士人材の活用や活躍ぶりなどもお話しいただきます。

キャリアパス多様化支援セミナー
（博士のキャリア選択の多様性に関するセミナー）

知的財産、交渉学、起業等、専門教育とは異なる内容を様々な講義、演習によって学びます。これらのセミナーの中でDC・PDが自己分析を行い、キャリア選択の重要性を認識して将来の活躍の場を考える機会を提供します。

赤い糸会＆緑の会（博士研究者と企業の直接交流；マッチング）

博士研究者と企業が人数を絞って直接交流し、お互いの思いを直接ぶつけあいます。企業からは新規テーマや必要とするスキルや博士人材像のプレゼン、博士研究者らは専門性やスキル、人物像まで含めたポスター発表でアピールします。その場でインターンシップの内定もあります。

企業からのプレゼン

博士からのポスタープレゼン

企業ブースでの交流

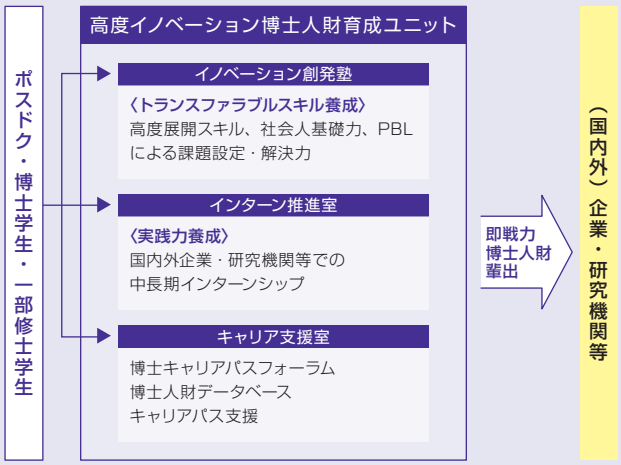
2－②東北大学
【イノベーション創出人材連携育成プログラム】

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

本プログラムは、広い視野とマネジメントスキルやコミュニケーション力などの社会人基礎力、PBLによる課題設定・解決力などを習得し、自ら起業家を目指す人財、産業界でイノベーション創出を目指す人財など、研究室で培った高度専門知識・技術をベースとしたイノベーション創発人財を育成すると共に、即戦力となる高付加価値博士人財を社会に輩出するものです。

イノベーション創発塾でのトランスファラブルスキルの習得に加えて、中長期インターンシップにより実践力の習得が出来ます。キャリア支援室では、専門スタッフが収集した求人情報に基づき、ベストマッチングを実現する強力なサポートをしています。

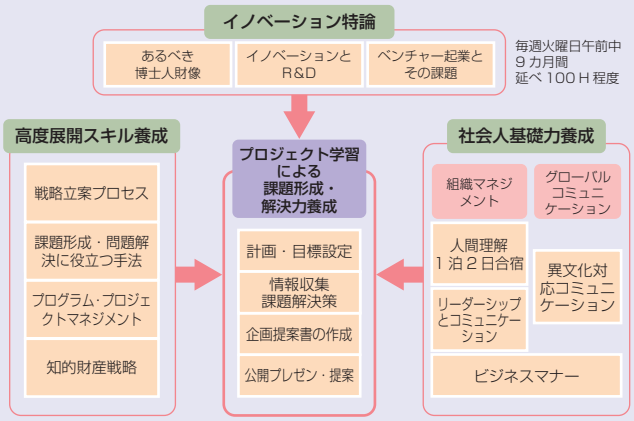
(PBL:Project Based Learning プロジェクト学習)



即戦力博士人財育成を目指すイノベーション創発塾

○研究科の枠を超えた異分野同士の博士交流やネットワーク形成ができます。
　ほぼ全研究科から学生が参加しています。
○詰込み形式ではなく合宿、チームワーク、グループワーク中心
○課題形成・問題解決能力とノウハウの習得ができる創造性啓発講座です。

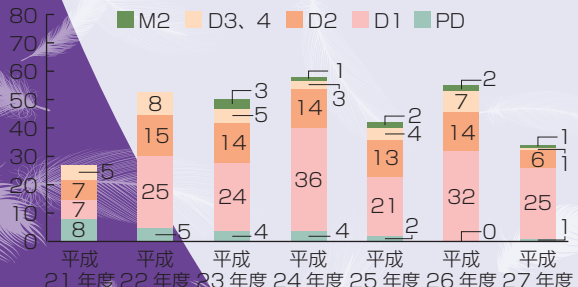
カリキュラム構成



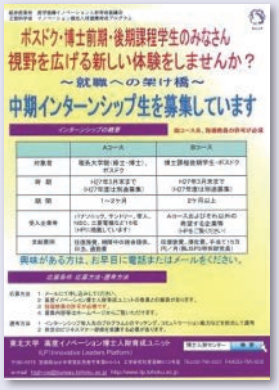
◀塾講義状況

▲▼PBL公開発表会

各年度の入塾生人数実績



中期インターンシップとベストマッチングのためのキャリア支援



◆中長期インターンシップ制度
○国内外企業・研究機関にて1～3ケ月間
○旅費・日当・滞在費等の支給は別途相談
○指導教員の許可と受入先でのマッチング審査あり

◆キャリアパスフォーラム
○企業のおける博士のキャリアパスと業界内容の理解
○年1回開催、100名程度参加

キャリアパスフォーラムでの企業説明会（左下）と、交流会（右下）風景

◆キャリア支援面談
○専門スタッフによる個別面談
○個を重視したキャリアパス支援

◆自信をつける
○自己の強みや可能性の発見
○自己の進むべき方向の明確化
○「応募書類４点セット」の作成指導

◆出会いの場の設営
○博士キャリアパスフォーラム開催
○企業訪問による開拓と求人情報収集
○就職希望者情報データの整備と提示

求職者
（ポスドク、後期課程学生）
との個別面談

ベストマッチング実現

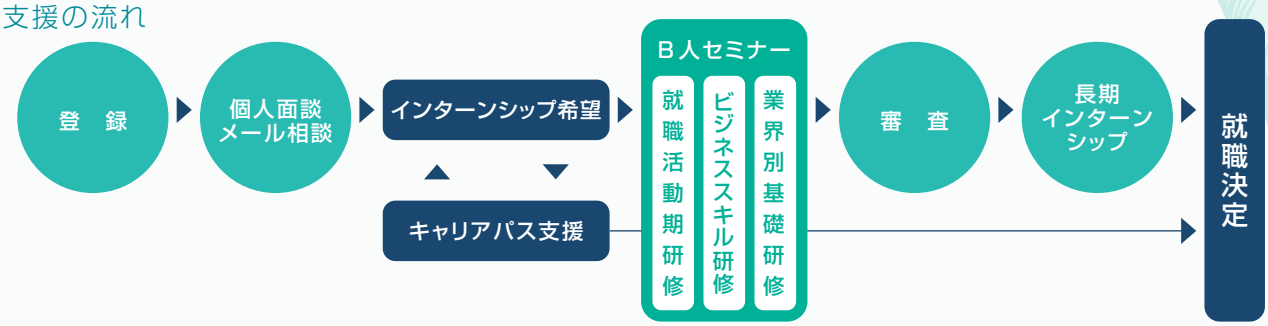
企業訪問
求人情報収集
インターン受入先開拓

担当窓口　東北大学高度教養教育・学生支援機構
キャリア支援センター　高度イノベーション博士人財育成ユニット
E-mail：high-ca@grp.tohoku.ac.jp　Tel：022-795-3231

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センターでは、ポストドクター・博士課程後期課程学生を中心とした若手研究者のキャリアパス支援（個人面談、B人セミナー、長期インターンシップ、企業情報の提供等）を実施しています。

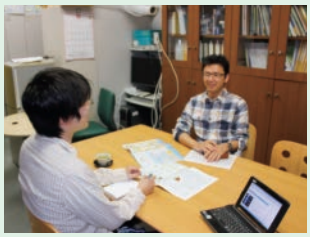
支援の流れ



個人面談・メール相談

登録後、個人面談またはメール相談からキャリアパス支援が始まります。

ビジネス人材育成センターでは、個人個人に応じた支援ができるよう、個人面談・メール相談を重要視しています。面談やメール相談を繰り返し、キャリアプランを明確にしていきます。



長期インターンシップ

企業と大学がコミュニケーションを取り、協力して人材育成を行うプログラムで、就職や視野を広げるための実地研修です。期間は２ヶ月程度、長期インターンシップ中は名古屋大学の研究員として雇用します。若手研究者各自が積極的に企業研究をし、インターンシップを実施するよう支援します。この長期インターンシップは、単なる“体験”ではなく、社員と同様に実際の仕事に携わることで、実務的な知識や技術を学ぶことが出来、キャリアに活かすことができます。

B人セミナー

ビジネス人材育成センター登録者向けのセミナーとして企画されていますが、ポストドクター・博士課程後期課程学生であれば、どなたでも参加可能です。

前期・後期の２ターム制、名古屋大学東山キャンパス内で開催します。社会で必要とされている、キャリアデザイン力、コミュニケーション能力、論理的思考力（ロジカルシンキング）を中心とした内容です。また、業界の情報が入手できるセミナーもあります。

なお、所属が名古屋大学以外の方は、セミナーの事前参加登録と併せて当センターへの登録が必要です。

企業と博士人材の交流会

●ポスターセッション

学会発表で同じ専門分野の研究者への説明には慣れている博士たちが、専門外の企業人に自らの研究成果を判り易く説明することを体験します。常日頃交流の少ない企業ー博士間における“異業種交流”でもあります。

●合同企業説明会

参加企業各社による2分間のPRスピーチに続き、各企業ブースで1回あたり30～ 40分間の企業説明･質疑応答を3～4回入替制で行います。

その他の支援

●多彩な分野で活躍する方々の話を聞くこともできます。
●セミナーのお知らせ等、これからのキャリアを考えるために役立つ情報を中心にメルマガを配信しています。（登録者限定）

名古屋大学 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター
http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/graduate/career/
E-mail: b-jinsupport@aip.nagoya-u.ac.jp　TEL: 052-747-6490

■運営協議会事務局

北海道大学　人材育成本部　連携型博士研究人材育成推進室
〒060-0808　北海道札幌市北区北８条西５丁目
TEL 011-706-2271　FAX 011-706-3584
e-mail : cofre@synfoster.hokudai.ac.jp　　URL : http://cofre.synfoster.hokudai.ac.jp

■各機関事務局

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY

次世代研究者育成担当（助教）
北海道大学　人材育成本部
連携型博士研究人材育成推進室
〒060-0808
北海道札幌市北区北８条西５丁目
TEL 011-706-2271
FAX 011-706-3584
e-mail : cofre@synfoster.hokudai.ac.jp
URL : http://cofre.synfoster.hokudai.ac.jp

総合イノベ人材育成担当（DC・PD）
北海道大学　人材育成本部
連携型博士研究人材育成推進室
〒060-0808
北海道札幌市北区北８条西５丁目
TEL 011-706-3195
FAX 011-706-3584
e-mail : cofre@synfoster.hokudai.ac.jp
URL : http://cofre.synfoster.hokudai.ac.jp

東北大学 TOHOKU UNIVERSITY

次世代研究者育成担当（助教）
東北大学学際科学フロンティア研究所
事務室
〒980-8578
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
TEL 022-795-5757
FAX 022-795-5756
e-mail : office@fris.tohoku.ac.jp
URL : http://www.fris.tohoku.ac.jp

総合イノベ人材育成担当（DC・PD）
東北大学高度教養教育・学生支援機構
キャリア支援センター
高度イノベーション博士人財育成ユニット
〒980-8579
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11
TEL 022-795-3231
FAX 022-795-3232
e-mail : high-ca@grp.tohoku.ac.jp
URL : http://www.ilp.tohoku.ac.jp

名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY

次世代研究者育成担当（助教）
名古屋大学
高等研究院
〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町１番地
TEL 052-788-6051
FAX 052-788-6151
e-mail : iar@adm.nagoya-u.ac.jp
URL : http://www.iar.nagoya-u.ac.jp

総合イノベ人材育成担当（DC・PD）
名古屋大学 社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター
〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町１番地
TEL 052-747-6490
FAX 052-788-6002
e-mail : b-jinsupport@aip.nagoya-u.ac.jp
URL : http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/graduate/career/